

留学先大学：クイーンズランド大学

留学先での所属学部・研究科：なし

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2012年1月～2012年25月

神戸大学での所属学部・研究科：国際文化学部

学年（出発時）：3

本報告書記入日：2012年11月25日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	Comtemporary Australia	Dr Robert Hogg	1	2	40	readinが毎週、essayが隔週であり、最後にfinal essayがあります。毎回内容を予習して授業に出席することが必要でした。
2	Academic Writing	Dr Lala Vanderstaay	2	2	200	課題は主に1000wordsと2000wordsのessayで、内容は語学コースのものと重複することが多かったです。
3	Korean Introduction	Dr Isaac Lee	2	2	200	神戸大学でうけていた語学の授業よりも格段に進むスピードが速いので、こまめに復習することが大事だと思います。単語テスト、スピーキング、ライティングなど5つテストがあるのでそれを利用して復習していけば大丈夫だと思います。
4	Korean Introduction B	Dr Isaac Lee	2	2	100	同上
5	Intercultural Communication	Dr Delaney Skerrett	2	2	50	比較的話しやすいテーマ（異文化理解、異文化間のコミュニケーション）について話しあう機会があるので、英語学習の一環として受講しました。課題等はessayとプレゼンテーションで難易度は高くありませんでした
6	2nd language learning & Teaching	Dr Maryam Hassan Jamarani	2	2	200	課題は3つの主なessayで、それぞれ1000-2000words。lectureやtutorialににて理解を深めてからessayに取り組むことが重要
7	Indigenous knowledge and Education	Dr Liz Mackinlay	2	2	200	課題はessay2つ、presentation、journalなど数多くあり、またlectureやtutorialでミニプレゼンターしよん（話し合った内容をまとめて発表）が毎回あるので予習していてもついていくのが大変だった。
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズは1000番代（1年生向け）の授業ほど規模が大きく、essayの書き方やプレゼンテーションの作り方まで、講義内で教えてくれる場合もあるなど、基礎的な内容で、成績も比較的いい点を取りやすいと思います。2000番代や3000番代と対象とする学年やレベルが上がるにシカがって、生徒数は減り、より専門性の高い分野を勉強することになります。（課題も多くなり、評価も厳しくなります）特に2000番代以降の授業において、現地の学生は交換留学生と違いその分野をより専門的な知識を持って授業に取り組んでいるので、英語力が及ばない分、授業の内容の理解を自分自身で深めておく必要があると思いました。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：27万円

・住居費：（月額） $\frac{14万円(1日3食込)}{}$ ×（留学月数） $\frac{10}{}$ ヶ月 = $\frac{140万円}{}$ ・食費：（月額） $\frac{(外食等)5000円\sim 20000円}{}$ ×（留学月数） $\frac{10}{}$ ヶ月 = $\frac{9万円}{}$

・保険料：25万円

・その他：15万円

合計：200万円（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

学業面については留学前に書いた志望動機を読み返してみると、私の場合、受講したかった授業すべてを受講できたわけではありませんでした。大きな理由としてはTOEFLの点数が90点に足りていなかったため、1学期目は制限付きの科目の中からしか授業が選べなかったためです。幸い1学期の科目すべてパスすることができたので2学期目は自由に取りたい科目をとることができたので、よかったです。TOEFLの点数がもう少しあれば更に自分の興味のある分野の授業を受講することができたので、TOEFL勉強はもっと努力の余地があったと反省しました。しかし、その中でも、特に後期はUQで学びたかった、マイノリティの教育、言語教育、言語習得などについての授業をとることができたので、当初の目的は達成することができました。受講した授業は対象学年があがるほど、語学にハンデがあり、また周りの学生の専門性も高まるので、ついていくのが大変でしたが、ネイティブの友達や先生に助けをもらいながら、大きなトラブルもなく順調に取り組むことができました。

また、学校での授業のほかに、私の留學生活の大半を占めていたのが、寮生活でした。留学前に住居を決める際は、友達ができそうだからという理由で寮での生活を志望し、申請しましたが、クイーンズランド大学の寮は私が想像していたものとは大きく異なっていました。私が所属していたinternational houseの他にも9つの寮が大学敷地内にあるのですが、どの寮も寮の伝統や、寮への帰属意識を重んじていて、入寮してから1週間のオリエンテーションウィークは、朝から夜まで様々なイベントが用意されていて、その内容が過酷なものもあり、非常に戸惑ったこともありました。日本からの留学生の中にはなかなか寮の生活、“寮の文化”に適應できない人もいて、私自身も精神的にきつい時もありましたが、友達が増えだしてからはその環境を逆に楽しめるようになりました。常に200人以上の学生が暮らしているので、夜でも騒がしいことも多く、学習環境が決していいとは言えませんし、人間関係も友達との距離が近い分悩むことも増えると思いますが、常に英語を話せる環境にあることや、頼れる友達が近くにいること、多くの寮でのイベントに参加できること、より海外の文化を体験しやすい環境にいられたことなど、利点も多いので、これからUQへ留学する方も是非寮生活を候補に入れて欲しいと思います。